

公的医療機関等 2025 プランについて（地域医療構想関係部分抜粋）

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター																					
<p>【地域において今後担うべき役割】（P4）</p> <p>三次救急の医療機関として、名古屋市全域、特に中部・北部からの患者を受入、高度な治療の提供を行う機能を維持し、さらに充実を図る。</p> <p>地域がん診療拠点病院として、手術、化学療法、放射線治療など集学的な治療を行う高度急性期及び急性期機能を維持するとともに、がんゲノムに関する医療を推進し、中核的な役割を担っていく。</p> <p>地域医療支援病院として、名古屋・尾張中部構想区域のうち、名古屋北部・尾張中部における医療連携を推進する中心的な医療機関として取り組む。</p> <p>愛知県地域中核災害拠点病院として、南海トラフを震源とする大地震が発生した場合に備え、訓練を実施するなど地域の中核的役割を担うとともに国立病院機構災害ブロック拠点病院として、広域にわたる災害時の人的支援等の役割も果たしていく。</p> <p>エイズ医療の提供体制における全国に14カ所しかない地方ブロック拠点病院並びに愛知県エイズ治療拠点病院としての役割を担っており、HIV患者に対する包括的な医療を提供するために不可欠な高度急性期及び急性期など機能を維持する。</p>																					
<p>【今後持つべき病床機能】（P4）</p> <p>現在、一般病床の全てを高度急性期としている。病棟単位では、それぞれの分野での高度急性期患者を取り扱っており、病棟単位での機能転換や機能に応じた病棟への患者配置は、各疾患の治療の専門性からも難しいため、現在の病床機能を維持していく。</p> <p>ただし、病床機能報告については、病棟ごとの中心的な機能を見極め、難しいところであるが、今後ガイドラインも踏まえながら、病床機能を適切に判断していくとともに、病床数についても病床稼働状況をみながら適切な規模となるよう検討を進めていく。</p>																					
<p>【今後の方針】（P5）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現在 (平成28年度病床機能報告)</th> <th></th> <th>将来 (2025年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>高度急性期</td> <td>690 床</td> <td rowspan="5">→</td> <td>590 床</td> </tr> <tr> <td>急性期</td> <td>0 床</td> <td>100 床</td> </tr> <tr> <td>回復期</td> <td>0 床</td> <td>0 床</td> </tr> <tr> <td>慢性期</td> <td>0 床</td> <td>0 床</td> </tr> <tr> <td>(合計)</td> <td>690 床</td> <td>690 床</td> </tr> </tbody> </table>			現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)	高度急性期	690 床	→	590 床	急性期	0 床	100 床	回復期	0 床	0 床	慢性期	0 床	0 床	(合計)	690 床	690 床
	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)																		
高度急性期	690 床	→	590 床																		
急性期	0 床		100 床																		
回復期	0 床		0 床																		
慢性期	0 床		0 床																		
(合計)	690 床		690 床																		

【その他の数値目標】（P6）

医療提供に関する項目

- ・病床稼働率：85%
- ・手術室稼働率：年間手術件数 5,700件、全身麻酔件数 2,700件
- ・紹介率：80%
- ・逆紹介率：70%